中山間地域における「交通空白」解消・防止パッケージ｜プロジェクトの概要

日本のひなた 宮崎県
総合交通課

プロジェクトの目的

- 宮崎県では、人口減少や運転手不足等を背景に、宮崎交通を中心とするバス事業の廃止・減便が相次いでおり、特に中山間地では日常生活が困難な地域の拡大が懸念。住民の足の確保が喫緊の課題となっている。
- このため、従来の二種免許運転手確保が困難となりつつあることを踏まえ、公共ライドシェア、施設送迎車両活用、互助輸送などのいわゆる白ナンバーも含めた地域の輸送資源のフル活用を推進する新たな政策パッケージを策定し、全県的な「交通空白」解消・防止を図る。

プロジェクトの進め方

1 実証フェーズ　FY2026着手

4つのテーマで県内における輸送資源フル活用の実証運行を行い、全県展開に向けた方法論や課題を整理する。

2 成果とりまとめフェーズ　FY2026完了

実証フェーズの検証を踏まえ、「フル活用」の取組をモデル化。全県展開に向けたマニュアルや事例集等を整備する。

3 仕組み化・普及フェーズ　FY2027実施

作成した「フル活用」モデルのマニュアルや事例集の活用等により、県内への実装を目指す。

取組テーマ

★地域輸送資源フル活用の広域モデル構築事業

テーマ1
公共ライドシェア導入のモデル化
県内で散発的に導入されている公共ライドシェアの体系的な導入を推進するため、地域特性に合わせた導入プロセス、委託手法、運行形態等のモデルケースを創出する。

テーマ2
施設送迎車両活用のモデル化
スクールバスや介護施設等の送迎車両に住民を混乗させる施設送迎車両活用の取組を推進するため、送迎の共同化、広域連携、関係者調整等のモデルケースを創出する。

テーマ3
住民互助輸送のモデル化
いわゆる「許可不要運送」を用いた住民互助輸送の取組を推進するため、運営主体の組織、費用負担のあり方、持続可能な運営手法等のモデルケースを創出する。

テーマ4
貨客混載事業のモデル化
貨物運送事業者が運送主体となる貨客混載事業を推進するため、公共ライドシェア活用スキーム、費用負担のあり方、運行管理等のモデルケースを創出する。

2026年度のスケジュール

中山間地域における「交通空白」解消・防止パッケージ　全体スケジュール

